

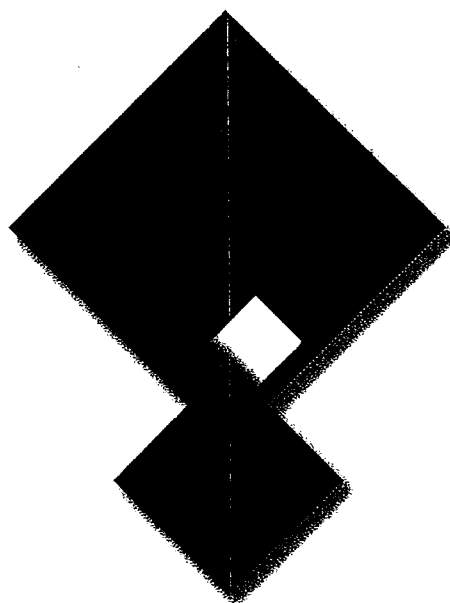
## 院内感染防止手順－すぐ実践できる(第3版)

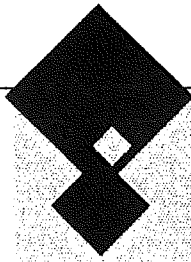
氏 名	所 属
研究顧問	
吉倉 廣	国立感染症研究所
荒川 宜親	国立感染症研究所
倉辻 忠俊	国立成育医療センター研究所
宮崎 久義	独立行政法人国立病院機構 国立熊本医療センター
研究代表者	
切替 照雄	国立国際医療センター研究所
研究分担者	
大久保 憲	東京医療保健大学大学院
河野 文夫	独立行政法人国立病院機構 熊本医療センター
加藤 はる	国立感染症研究所
中村 浩幸	国立成育医療センター研究所
西岡 みどり	国立看護大学校
工藤 宏一郎	国立国際医療センター
研究協力者	
網島 優	独立行政法人国立病院機構 札幌南病院
掛水 智子	独立行政法人国立病院機構 札幌南病院
菊池 喜博	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター
三木 祐	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター
菊池 ひで子	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター
田中 征雄	独立行政法人国立病院機構 長野病院
原 かおり	独立行政法人国立病院機構 長野病院
富成 伸次郎	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター
阿島 美奈	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター
大岡 均至	独立行政法人国立病院機構 神戸医療センター
岡本 英利	独立行政法人国立病院機構 神戸医療センター
陰下 敏昭	陰下内科
吉田 弘之	神戸大学医学部附属病院
乾 宏行	独立行政法人国立病院機構 和歌山病院
大谷 久美子	独立行政法人国立病院機構 和歌山病院
岩井 朝幸	独立行政法人国立病院機構 香川小児病院
高須賀久美子	独立行政法人国立病院機構 香川小児病院

氏 名	所 属
加藤 由紀恵	独立行政法人国立病院機構 関門医療センター
下川 晃生	独立行政法人国立病院機構 関門医療センター
福岡 義久	独立行政法人国立病院機構 関門医療センター
守田 和彦	独立行政法人国立病院機構 関門医療センター
吉田 真由美	独立行政法人国立病院機構 熊本医療センター
益田 洋子	独立行政法人国立病院機構 熊本医療センター
佐野 ありさ	独立行政法人国立病院機構 宮崎東病院
鬼塚 聖子	独立行政法人国立病院機構 宮崎東病院
坂田 典史	山鹿市立病院
渡辺 正剛	山鹿市立病院
齋藤 昭彦	国立成育医療センター
小林 信一	国立成育医療センター
菅原 美絵	国立成育医療センター
三浦 祥子	国立成育医療センター
島田 知子	国立成育医療センター
八木 哲也	名古屋大学医学部附属病院
北川 雄一	国立長寿医療センター
鈴木 奈緒子	国立長寿医療センター
前川 裕子	国立長寿医療センター
藤崎 浩太郎	国立長寿医療センター
平出 朝子	国立がんセンター中央病院
高崎 仁	国立国際医療センター
河野 正和	国立国際医療センター
黒田 恵美	国立国際医療センター
窪田 志穂	国立国際医療センター
篠原 有香	国立国際医療センター
川名 明彦	国立国際医療センター
加藤 康幸	国立国際医療センター
森 那美子	国立看護大学校
沼 直美	国立看護大学校
平松 玉江	国立看護大学校
坂木 晴世	東京大学大学院医学系研究科
藤田 烈	東京大学大学院医学系研究科

病院・診療所・介護老人施設における  
院内感染防止手順例

A 医療現場で使用している  
ポスター・掲示物の実際例





## 掲示物の実際例

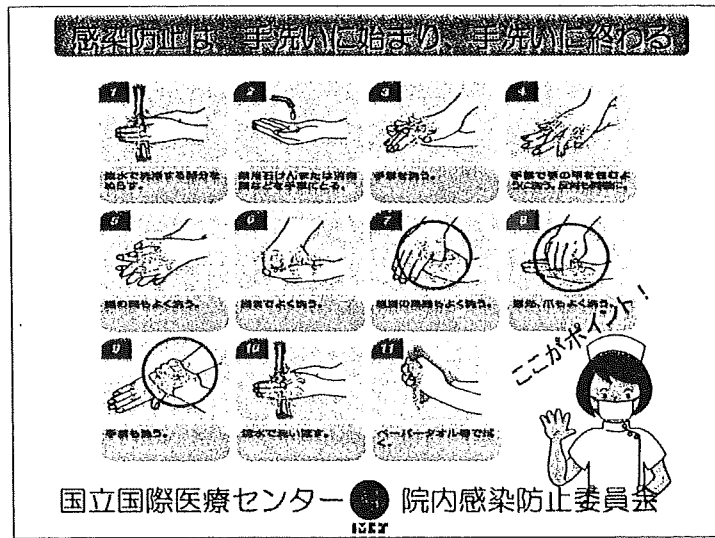
感染対策の基本は全員が参加することである。そのためには、それぞれの現場にあった方法で工夫したわかりやすい感染対策を実施することが大切である。ここでは、そんな現場の工夫の一つとして、医療現場で実際に使用しているポスターや掲示物を例示する。

ポスター、掲示物、フローチャートの作成は、感染対策担当者が一番苦心するところである。この実際例を参考にそれぞれの施設で役立てていただきたい。手洗い、針刺し事故、咳エチケットやインフルエンザ対策のポスターなど、日常、患者や面会者、医療従事者、窓口の職員を対象に実際に使用されているものである。

### 収録した実際例

- 手洗いポスター
- 針刺し事故防止ポスター
- 咳エチケットポスター
- インフルエンザ対策ポスター
- 面会者へのお願い
- 来院者へのお願い
- 病院職員へのお願い
- フローチャート

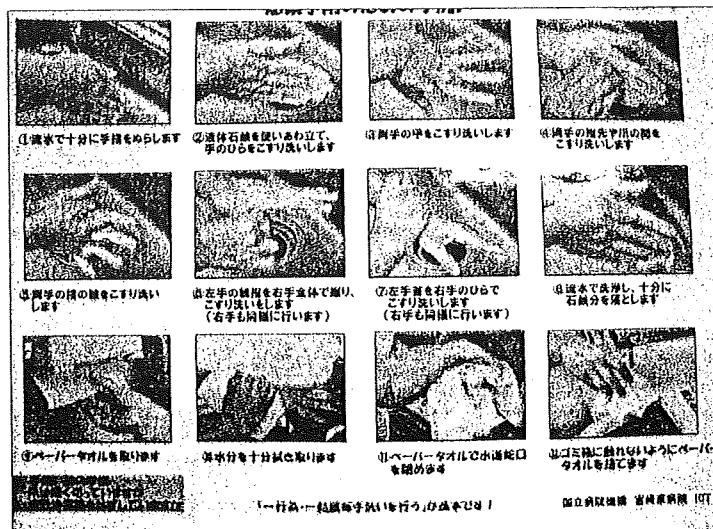
手洗いポスター



国立国際医療センター



国立国際医療センター



国立病院機構宮崎東病院

A 医療現場で使用しているポスター・掲示物の実際例



国立成育医療センター



国立成育医療センター ICT

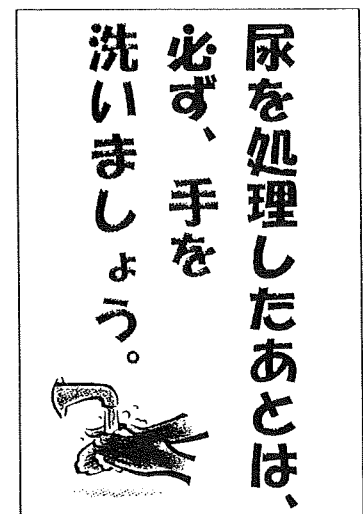
国立成育医療センター



国立病院機構神戸医療センター



国立病院機構神戸医療センター



名古屋大学医学部附属病院

針刺し事故防止ポスター

# 手袋着用 していますか？

感染リスク

手袋あり      手袋なし

採血      抜針      注射

手袋の種類、サイズはいろいろ取り揃えています。自分にあった手袋をみつけましょう。

手袋着用しての注射は慣れただけでいい！

針原研製針留置

国立病院機構熊本医療センター

## 目指せ！針刺し「ゼロ」

国立病院機構熊本医療センター

# 宣言

私たちは、採血時（血液に触れる時）手袋を着用します

署名

## 目指せ！針刺しゼロ！

国立病院機構 熊本医療センター 平成20年10月 院内感染対策委員会

国立病院機構熊本医療センター

国立病院機構熊本医療センター

# 針刺し 事故防止

手袋を着用しましたか？  
針ポイ容器持ちましたか？  
針は、リキャップしない！

安全衛生委員会  
院内感染対策チーム (ICT)  
名古屋大学医学部附属病院

名古屋大学医学部附属病院

# 針刺し「0」を めざして

針留置BOXと  
手袋を忘れずに！！

高滴      点滴      注射

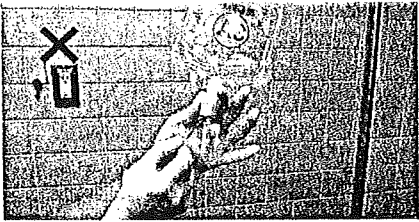
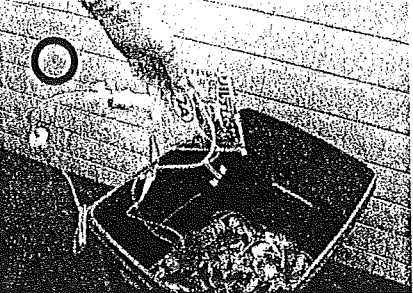
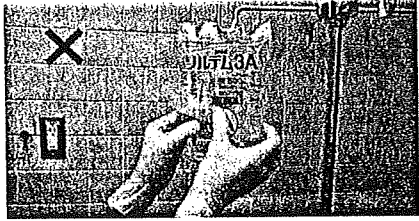
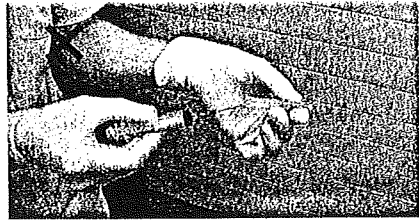
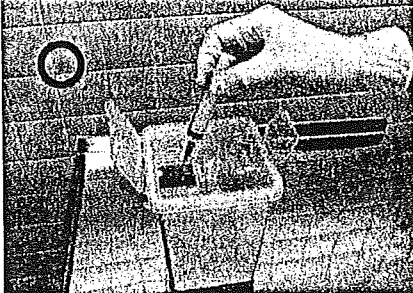
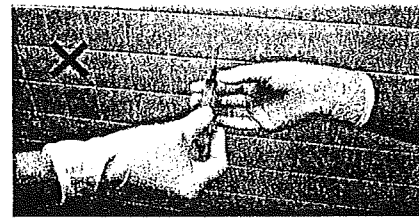

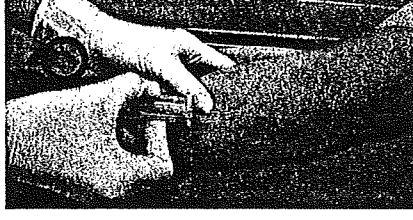
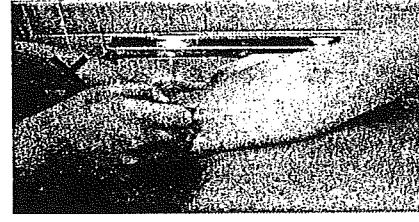
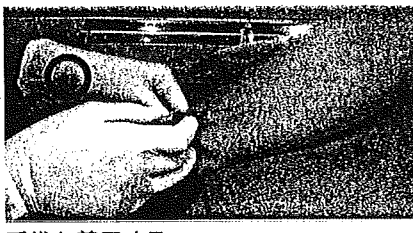
抜針      採血      血液検査

リキャップはしない！！

国立長寿医療センター ICT

国立長寿医療センター

A 医療現場で使用しているポスター・掲示物の実際例

針刺しにつながる危険な行為	望ましい行為
<p>①使用した針を点滴ボトルに刺す</p> 	 <p>使用後の針は直ちに、耐貫通性の感染性廃棄物容器に廃棄する</p>
<p>②使用した針を点滴ボトルにテープで貼り付ける</p> 	
<p>③使用した針をリキャップする</p> 	
<p>④使用した針を手渡りする</p> 	
<p>⑤採血用スピッツを手に持って血液を注入する</p> 	 <p>採血ホルダーを使用する</p>
<p>⑥素手で針を扱う</p> 	 <p>手袋を着用する</p>



咳エチケットポスター



**マスクを  
つけてください**

咳やくしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう！(★)  
マスクを持っていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を覆い、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。  
※鼻水、痰などがついたティッシュはすぐにゴミ箱へ捨てましょう！

2008年12月 国立病院機構大阪医療センター 感染管理室

国立病院機構大阪医療センター

**ハンカチマスクの着脱方法**

**Step①** 箱から1枚ずつマスクを取り出します。

**Step②** 取り出した時、手に触れた方を外側に向けず。

**Step③** 自分の鼻と顔の形に合わせて手で曲げていきます。

**Step④** ゴムひもを耳にかけます。

**Step⑤** 反対側の耳も同様にかけます。

**Step⑥** 蛇籠を下へ引き、鼻・口を十分に覆えば完了です。

\*マスクの横にも着脱方法の記載がみられますのでご確認ください。  
独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 感染管理室

国立病院機構大阪医療センター

**咳エチケット**

- 咳・くしゃみがでたら、マスクを着用  
インフルエンザ予防のために積極的にマスクを着用しましょう  
(マスクを持っていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を覆い、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう)  
外来入り口にマスクの自動販売機があります
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱へ  
鼻汁・痰などで手が汚れたら、すぐに手洗いをしましょう

国立国際医療センター

\* 国立国際医療センターでは、病院玄関にマスクの自動販売機を設置し、その横に上記ポスターを掲示している。

インフルエンザ対策ポスター



国立病院機構札幌南病院



国立病院機構札幌南病院



国立国際医療センター

院内発令  
「インフルエンザ警報」

病院内職員にインフルエンザが多発しています。今後の発症を防ぐために、以下の対策を強化してください。

1. 患者に接触するときには、マスクを着用する。患者接触後の手洗いを強化する。
2. 家族がインフルエンザを発症したときは、職員は当院外来を受診しインフルエンザの予防内服をしてください。

インフルエンザの症状  
発熱の38～39℃を超える発熱と、頭痛、関節痛、筋肉痛などに  
加え鼻汁、咽頭痛、咳などの上気道炎症状がみられ、全身倦怠  
感等の全身症状が強いことが特徴です。  
潜伏期は1日から5日(平均3日間)とされています。

平成21年1月21日  
感染防止委員会

国立病院機構和歌山病院

**インフルエンザウイルスには  
アルコール消毒が有効です**

\* ノロウイルス・ロタウイルスには流水  
による手洗いが有効です

国立病院機構香川小児病院

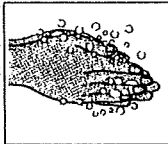
## 面会者へのお願い

### ご面会の方へお願い

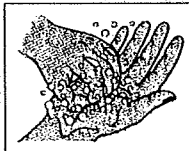
院内感染を防止するために、ご面会の方にも手洗いのご協力をお願いいたします。

廊下に設置してある手洗い用消毒薬をご使用ください。

1. 手のひらを洗う
2. 手の甲を伸ばすように洗う
3. 指のあいだを洗う



4. 指先・爪先の内側を洗う
5. 親指と手首を洗う



独立行政法人国立病院機構 和歌山病院

国立病院機構和歌山病院

短時間でお願いします  
感染防止のため面会は  
**面会制限**

国立病院機構香川小児病院

### 面会者のみなさまへ

急性胃腸炎の流行する時期になっています。  
急性胃腸炎の原因となる微生物には、非常に感染力が高く、病院内で集団感染を起こすものがあります。  
病院内には抵抗力の弱い患者さんが多く入院しておりますので、以下のことをお願いいたします。

- ・面会の前には看護師に声を掛けてください。
- ・病室への入室前・退室時には、石鹸を使って手洗いを行ってください。
- ・胃腸炎症状、風邪症状がある場合には、面会をご遠慮ください。

ご協力いただきますようお願い申し上げます。

国立病院機構長野病院

来院者へのお願い

◇ 医療従事者の  
◆ マスク・手袋着用にご理解とご協力をお願い致します



◆ 当院では感染対策の一環として、医療従事者から患者様へ細菌やウイルスを渡したりもらったりさせないために、日頃からマスクや手袋をつけていただく場合があります。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

◆ 国立病院機構  
◆ 札幌南病院 感染対策室

国立病院機構札幌南病院

吐き気、嘔吐のある患者様へ

例年、初冬から春先にかけて、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が多発しています！

◆ ノロウイルス  
ノロウイルスは、直径が約300ナノメートル、1000個程度の大きさの球形のウイルスで、胃酸でも死なないため、感染しやすいためです。

◆ 主に汚染された食品を食べることにより感染し、嘔吐・下痢を起こします。

◆ 感染した場合、ウイルスが便や「吐物」に大量に含まれ、わずかのウイルスでも感染を生じる恐れがあります。

**お願い**

当院では、院内感染防止のため、患者様に以下のことをお願いしています。皆様のご協力をお願い致します。

<吐き気のある方は…>

- ◆ 会計窓口、外来受付にて「ビニール袋」をお渡ししております。
- ◆ 吐き気のある方は、受付職員へお申し付け下さい。

<嘔吐された場合には…>

- ◆ ビニール袋を使用した場合には、袋をそのまま職員へお渡し下さい。
- ◆ 袋で汚れた場合には、そのまま何もしず職員へお渡し下さい。

決して「さわっつではダメ！」


国立病院機構宮崎東病院

病院職員へのお願い

病院職員の皆さまへ

これからの季節は感染性胃腸炎が流行します。感染予防のため手洗いとうがいを励行するようお願いいたします。

特に、ノロウイルスに対してはアルコールの消毒効果が低いため、排泄物に触れた後等は、必ず石鹸手洗いを行いましょう。また、ドアノブ、パソコン等のキーボードやマウスにふれた後にも手洗いが重要です。



平成 19 年 11 月 30 日  
国立病院機構長野野病院  
感染対策委員長

国立病院機構長野野病院

職員の皆様へ

現在、感染性胃腸炎疑い患者が徐々にですが増えてきています。当院でも、嘔吐・下痢症状を伴う患者が入院しています。また、職員も同様の症状で数人がすでに休んでいます。


ノロウイルスなどの確定診断がついていなくとも、嘔吐・下痢症状のある人への対応は同じです。

感染しても健康な人であれば自然軽快していきますが、易感染者や高齢者が多数を占めている病院内では、あっという間に感染が拡大し、重症になりえます。

感染性胃腸炎の疑い患者や症状(嘔気・嘔吐・下痢が主症状)がある患者がいた場合、個室管理・集団管理や感染防止策、その周囲の患者の状態把握、栄養科への連絡なども忘れずにし、迅速な対応をお願いいたします。なお、感染防止策については院内感染予防マニュアルの「ノロウイルス」の項に具体的に記載してありますので、参考にして下さい。さらに、感染性胃腸炎が流行する時期ですので、ハイターでの環境整備をお願いします。

また、職員ひとりひとりも自分に同様の症状があった場合には必ず自己申告をするようお願いいたします。

**嘔気・嘔吐・下痢の患者がいたら  
すぐに感染性胃腸炎を疑い対応！！**

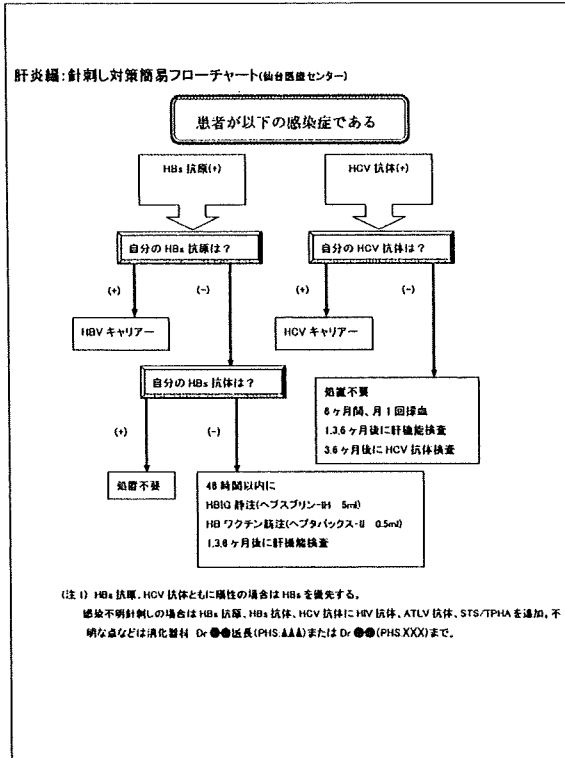


※流行の兆しがあります。  
手洗い・うがい・マスク・咳エチケットを！

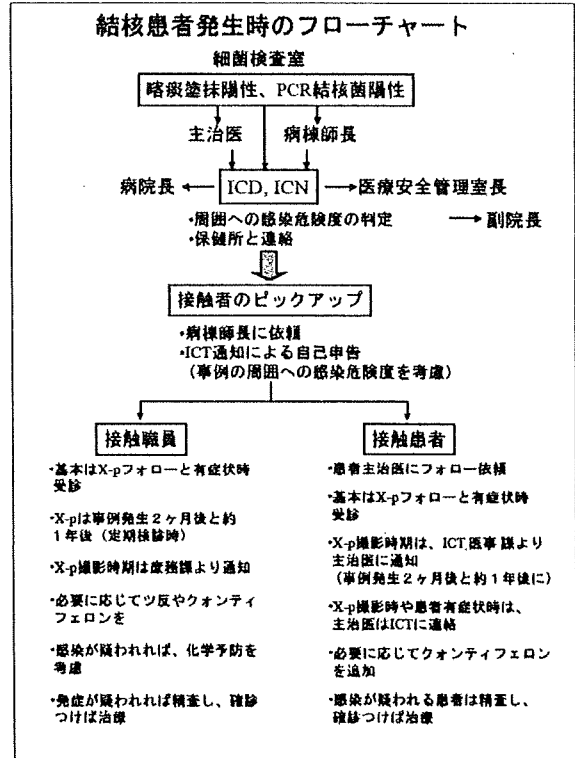
平成 20 年 12 月 3 日 院内感染対策委員会

国立病院機構熊本医療センター

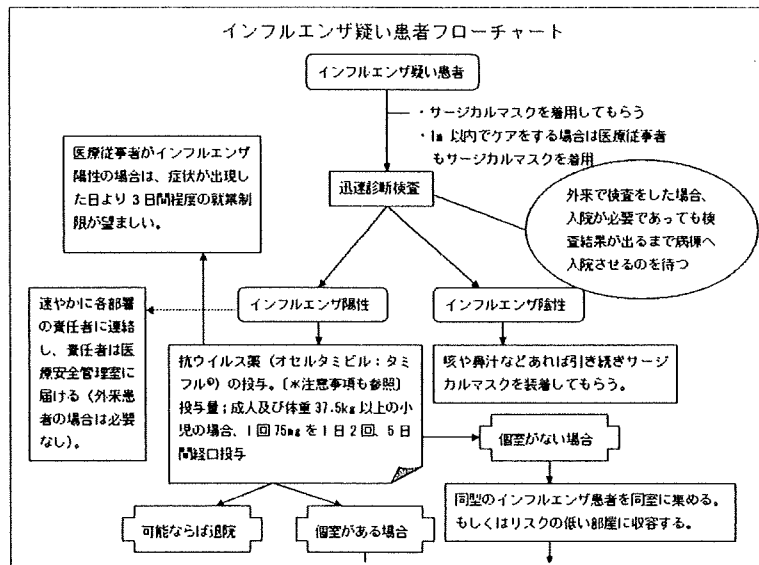
フローチャート



国立病院機構仙台医療センター



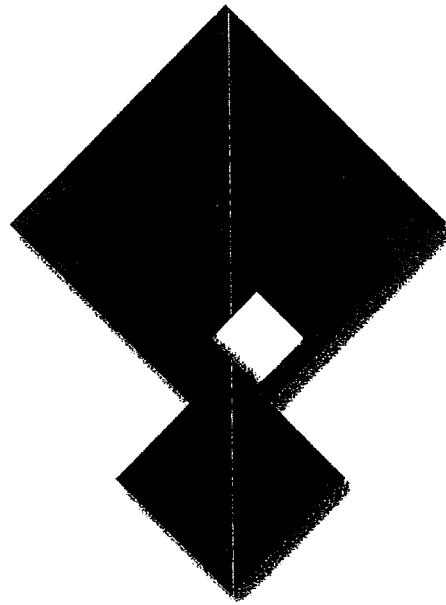
国立長寿医療センター

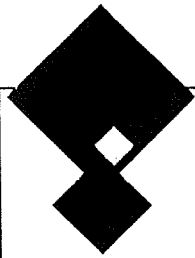


国立病院機構熊本医療センター

病院・診療所・介護老人施設における  
院内感染防止手順例

B 総論





# ① インфекションコントロール チーム (ICT)

## I ICTの重要性

1. 院内感染防止対策の効果を高めるためには、実働部隊としてICTを設置し、ICTを病院の中で適切に位置づけ、チーム規程に基づき活動することが重要である。
2. ICTは、医師、看護師、検査技師、薬剤師、栄養士、事務職員など、各職域から構成されることが必要である。
3. 定期的な一般サーベイランス（監視）、手術創やカテーテルなどに的を絞ったターゲットサーベイランス、薬剤耐性サーベイランス、抗生物質使用調査などを行い、院内感染防止に努める。
4. 定期的に各職域を巡回し、感染対策の実施を把握し、指導を行う。
5. 巡回した結果は毎月、各委員会（院内感染対策委員会、看護師長会）に報告し、改善するよう提言する。
6. 院内感染事例を検討・分析し、他病棟にも役立つよう公表する。
7. ICTの活動には、リンクナース、インфекションコントロールナース（ICN）、インフェクションコントロールドクター（ICD）の存在が重要である。

## II 医療法のもとにある院内感染対策

院内感染は、患者にとって苦痛であり、時には致命的となるばかりでなく、その治療に要する医療費、ベッドの占有、医療にかかわる人的資源などの余分な医療資源を費やすこととなる。医療法では医療安全対策が規定されているが、院内感染対策もその一環である。ICTは、病院がこのような法的要求を満たすための最前線にあることを銘記しなければならない。

医療法は、まず第6条の10において、医療施設は「医療の安全を確保するための措置を講じなければならない」と定め、さらに、医療法施行規則の第11条で、これ

を院内感染対策に置き換えて読むと、「管理者は、①院内感染対策（医療に係る安全管理）のための指針の整備、②院内感染対策（医療に係る安全管理）のための委員会の開催、③院内感染対策（医療に係る安全管理）のための職員研修の実施、④院内感染対策（医療機関内における事故）報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を講ずるために、院内感染対策（安全管理）のための体制を確保しなければならない」となる（カッコ内は原文）<sup>1</sup>。院内感染の具体的な指導としては「医療施設における院内感染の防止について」（医政指発第 0201004 号）<sup>2</sup>がある。

次に医療報酬に関しては、「基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて」（保医発第 0306002 号）<sup>3</sup>で、院内感染に関係する項目を検索するとよい。

- <sup>1</sup> 厚生労働省：良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法の一部を改正する法律、法律第 84 号、平成 18 年 6 月 21 日。
- <sup>2</sup> 厚生労働省：医療法施行規則の一部を改正する省令、厚生労働省令第 27 号、平成 19 年 3 月 26 日。
- <sup>3</sup> 厚生労働省医政局長：良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律の一部の施行について、医政発第 0330010 号、平成 19 年 3 月 30 日。

#### 収録した手順例

- 院内感染対策チーム規程〈例〉
- 院内感染対策における ICT の役割
- 院内感染対策組織〈例〉



## 院内感染対策チーム規定〈例〉

### (設置)

第1条 院内感染対策委員会規程第6条に基づき、院内感染対策委員会（以下「委員会」という）のもとに院内感染対策チーム（以下「ICT」という）を置く。

### (構成)

第2条 ICTは、感染管理医師（ICD）、感染管理看護師（ICN）、医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務職員で構成し、3チームを編成する。ICTのリーダーはICNまたはICDが行い、リーダーは特に必要と認める職員をICTに加えることができるものとする。

### (業務)

第3条 ICTの業務は次のとおりとする。

#### (1) 院内感染発生状況の把握

細菌検査室および病棟より報告される院内感染情報の把握と分析を行う。

#### (2) 院内感染対策

月1回以上、各職場の点検を行い、院内感染予防の観点から指摘や改善指導を行う。

#### (3) 院内感染症治療対策

院内発生の感染症に対する治療法の提言、細菌学的な助言や院内感染防止のための指導を行う。

#### (4) 教育・啓蒙

院内感染対策に関して職員の教育・啓蒙および感染防止マニュアル・ガイドラインの作成を行う。

#### (5) 委員会への報告

実施した諸指導・提言の内容について、毎月、委員会へ報告する。

### (記録)

第4条 対策チームの指摘・指導事項等の記録保管は医事課があたるものとする。

附則 この規程は、平成12年3月1日より施行する。

## 院内感染対策における ICT の役割

### 【院内感染対策部門の構成と役割】

院内感染対策部門の構成を図に示す。

#### 1. 院内感染対策委員会 (ICC)

感染対策に関する最高の審議機関であり決定機関である。副院長が委員長を兼任している。委員会は院内各部署を代表する職員によって構成される。月1回の定例会では、MRSA、多剤耐性緑膿菌、結核などの発生状況、抗菌薬使用状況の報告などがなされ、問題点の検討と改善策の決定が行われる。

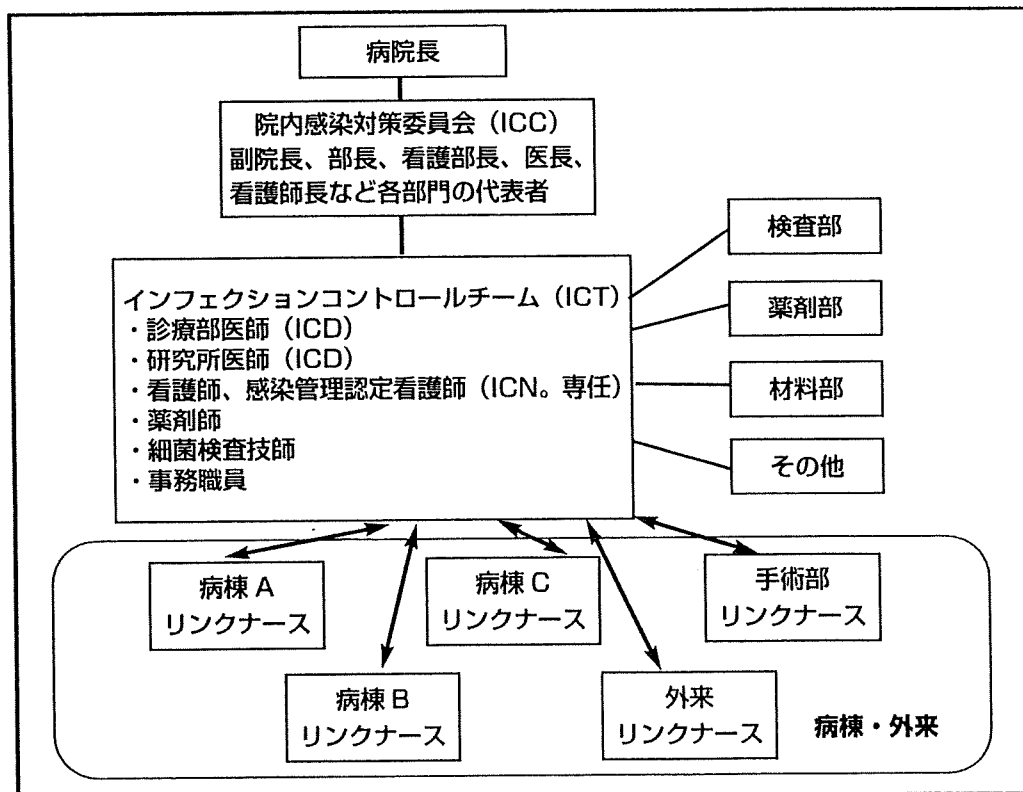
#### 2. ICT

院内感染対策委員会の下部組織であり、感染対策の実働部隊といえる。現在、診療部ならびに研究所医師、看護師長、薬剤部、細菌検査室担当者、事務系職員ら合計11名で構成されている。週1回の定例会を実施している。その活動については後に詳述する。

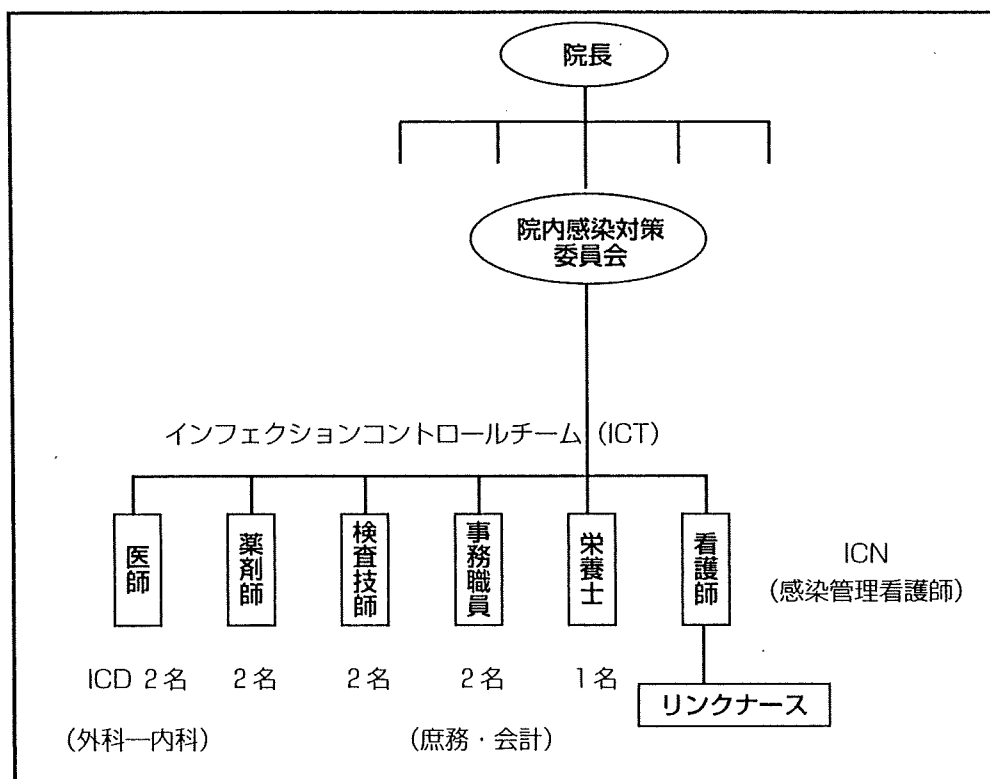
#### 3. リンクナース

リンクナースは、病棟・外来など看護単位ごとに1名任命され、当該部署の看護師のなかで感染対策の中心となる。現場での感染対策上の問題点のピックアップ、病棟スタッフの教育、ICTと病棟との橋渡しなどを行う。また、必要に応じてICTの活動に参加する。院内感染防止に関する最新の知識習得に努めることも重要な役割である。

図 院内感染対策部門の構成



### 院内感染対策組織〈例〉



**感染対策委員会** : 年3回開催 (5月、10月、3月)

**感染対策小委員会** : 月1回開催 (第1金曜日) 15:00 ~ 17:00

【構成メンバー】: ICT、リンクナース

**ICT会議** : 月1回開催 (第4水曜日) 16:00 ~ 17:00

【ラウンド】 : 第1・3水曜日  
第2・4金曜日

#### 【ICTの役割】

1. 感染対策の実務組織
2. 感染対策の具体的な立案・実行・評価
3. サーベイランス、コンサルテーション (相談)、職員教育
4. 感染対策委員会への結果報告と提言

#### 【ICTの業務内容】

1. サーベイランス
  - ①感染症発生・感染経路の把握
  - ②院内環境の汚染状況や保菌者の把握
  - ③病院疫学情報の把握
2. コンサルテーション
  - ①感染対策に関するコンサルテーションと指導
  - ②感染防止マニュアル・ガイドラインの作成

- ③感染対策の処置、予防処置の評価と指導
- ④職員への啓蒙・教育
- ⑤院内各部門との連携・協力
- ⑥他施設、地域医療との感染対策ネットワークの構築
- ⑦患者・家族、地域住民への対応

**【役割】**

ICD	<ul style="list-style-type: none"> <li>①感染対策の立案と指導</li> <li>②細菌検出状況と薬剤感受性成績の把握</li> <li>③感染症の有無の把握</li> <li>④感染源・感染経路の特定</li> <li>⑤環境汚染状況や保菌者の把握</li> <li>⑥スタッフの教育・啓蒙</li> <li>⑦新しい感染情報の入手と情報提供</li> </ul>
薬剤部	<ul style="list-style-type: none"> <li>①抗菌薬や消毒薬の使用状況の把握と適正使用の指導</li> <li>②医薬品や医療機器汚染の監査・指導</li> </ul>
検査部	<ul style="list-style-type: none"> <li>①起炎菌の検索、薬剤感受性検査</li> <li>②院内疫学情報の提供（感染経路・環境微生物検査、保菌者検査、疫学マーカー検査）</li> </ul>
事務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>①事務処理全般</li> <li>②院内各部、他施設への連絡（コーディネーター）</li> <li>③必要経費の算定、経費管理</li> </ul>
栄養士	<ul style="list-style-type: none"> <li>①食品衛生管理</li> <li>②保菌者調査への協力</li> </ul>
ICN	①サーベランス    ②職員の教育    ③院内感染防止の監査    ④研究
リンクナース	別記

**リンクナースについて**

**役割**

- ①感染症患者の把握（報告票）
- ②消毒薬の管理と適正使用の指導（薬剤師と連携）
- ③委員会決定事項の徹底
- ④職員や患者・家族への手洗い等の清潔指導
- ⑤院内感染防止マニュアルの確実な実践と指導

**今年度の重点的役割**

- ①各部署の環境を整える
  - ・感染防止の視点から清潔な環境を維持
- ②手洗いの徹底
  - ・蛍光試薬を用いた手洗いの確認
  - ・各部署の手洗い状況の把握
- ③ヒビソフトの使用を高める
  - ・職員、患者、面会者の使用状況を把握し、対策を検討
  - ・使用開始時に赤のマジックでラインを引き、開始日を記入
  - ・毎月第1月曜日にラインと日付を黒マジックで記載
  - ・使用量のチェック

**活動方法**

- ①リンクナースは各部署へ問題を投げかけて、皆で協議し、対応策を一緒に検討
- ②感染防止チーム (ICT) への情報提供や相談